

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】平成20年10月2日(2008.10.2)

【公表番号】特表2004-517710(P2004-517710A)

【公表日】平成16年6月17日(2004.6.17)

【年通号数】公開・登録公報2004-023

【出願番号】特願2002-508566(P2002-508566)

【国際特許分類】

B 0 1 J 23/88 (2006.01)

B 0 1 J 37/00 (2006.01)

B 0 1 J 38/12 (2006.01)

C 1 0 G 45/08 (2006.01)

C 1 0 G 45/50 (2006.01)

C 1 0 G 47/10 (2006.01)

【F I】

B 0 1 J 23/88 M

B 0 1 J 37/00 B

B 0 1 J 38/12 C

C 1 0 G 45/08 Z

C 1 0 G 45/50

C 1 0 G 47/10

【誤訳訂正書】

【提出日】平成20年8月15日(2008.8.15)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】少なくとも1つの第VIII族卑金属成分、少なくとも2つの第VIB族金属成分及び少なくとも1重量%の、可燃性バインダー及びその前駆体から選ばれる可燃性バインダー物質を含み、第VIII族及び第VIB族金属成分が、酸化物として計算されて、触媒組成物の少なくとも50重量%を構成し、第VIB族金属成分がモリブデンとタングステンを9：1～1：19のモル比で含む、触媒組成物。

【請求項2】第VIII族及び第VIB族金属成分が、酸化物として計算されて、触媒組成物の少なくとも70重量%を構成する請求項1記載の触媒組成物。

【請求項3】少なくとも1つの第VIII族卑金属成分、少なくとも2つの第VIB族金属成分及び少なくとも1重量%の可燃性バインダー物質から実質的に成る、請求項1または2記載の触媒組成物。

【請求項4】第VIII族卑金属成分がコバルト、ニッケル、鉄、又はこれらの混合物を含む、請求項1～3のいずれか1項記載の触媒組成物。

【請求項5】ニッケル及びコバルトが、酸化物として計算されて、第VIII族卑金属成分の合計の少なくとも50重量%を構成する請求項4記載の触媒組成物。

【請求項6】モリブデン及びタングステンが、酸化物として計算されて、第VIB族金属成分の合計の少なくとも50重量%を構成する請求項1～5のいずれか1項記載の触媒組成物。

【請求項7】可燃性バインダー物質が、主成分として炭素を含むところの、可燃性バインダー又は熱分解された後のもしくは熱分解されていない可燃性バインダー前駆体である、

請求項 1～6 のいずれか 1 項記載の触媒組成物。

【請求項 8】可燃性バインダー物質が、ポリアクリロニトリル、ペークライト、ポリアミド、ポリウレタン、セルロース及びその誘導体、ヘミセルロース状物質、ポリフルフリルアルコール、スチレン-ジビニルベンゼンコポリマー、フェノール樹脂、フラン樹脂、ポリイミド樹脂、ポリフェニレン樹脂、フェノール系フォーム、及びウレタンフォームからなる群より選ばれる有機ポリマーを含む、可燃性バインダー前駆体である又は該可燃性バインダー前駆体から誘導されたものである、請求項 7 記載の触媒組成物。

【請求項 9】少なくとも一部の金属成分が硫化された形態である、請求項 1～8 のいずれか 1 項記載の触媒組成物。

【請求項 10】少なくとも 1 つの第 VIII 族卑金属成分を少なくとも 2 つの第 VIB 族金属成分であって、モリブデンとタングステンを 9 : 1～1 : 19 のモル比で含む、第 VIB 族金属成分とプロトン性液体の存在下で接触させる工程を含み、可燃性バインダー又はその前駆体から選ばれる可燃性バインダー物質が、金属成分を接触させる工程の前に、間に、及び／又は後に添加される、請求項 1～9 のいずれか 1 項記載の触媒組成物を調製する方法。

【請求項 11】金属成分を接触させる工程が、溶液中で金属成分を混合し及び反応させて沈澱を形成する工程を含む、請求項 10 記載の方法。

【請求項 12】金属成分を接触させる工程が、プロトン性液体の存在下で金属成分を混合し及び反応させる工程を含み、全工程の間、少なくとも 1 つの金属成分は少なくとも部分的に固体状態のままである、請求項 10 記載の方法。

【請求項 13】可燃性バインダー物質が可燃性バインダーの前駆体を含む場合には、該前駆体が、添加後に可燃性バインダーに転換される、請求項 10～12 のいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 14】可燃性バインダーの前駆体が、300℃～600℃の温度で不活性雰囲気下での熱分解によって可燃性バインダーに転換される、請求項 13 記載の方法。

【請求項 15】硫化工程を含む、請求項 10～14 のいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 16】請求項 1～9 のいずれか 1 項記載の触媒組成物を、炭化水素供給原料の水素化精製処理のために使用する方法。

【請求項 17】第 VIII 族卑金属、第 VIB 族金属、及び可燃性バインダーを含み、可燃性バインダー部分として触媒組成物の総重量に基き少なくとも 1 重量%の炭素を含む使用された又は廃物の触媒組成物の再使用方法であって、使用された又は廃物の触媒組成物を 300℃以上の温度で酸素含有雰囲気下で熱処理することを含む方法。

【請求項 18】使用された又は廃物の触媒組成物が、少なくとも 1 つの第 VIII 族卑金属成分及び少なくとも 2 つの第 VIB 族金属成分を含み、第 VIII 族及び第 VIB 族金属成分が、酸化物として計算されて、触媒組成物の少なくとも 50 重量%を構成する、請求項 17 記載の方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0010

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0010】

従って、本発明は少なくとも 1 つの第 VIII 族卑金属成分、少なくとも 2 つの第 VIB 族金属成分及び少なくとも 1 重量%の、可燃性バインダー及びその前駆体から選ばれる可燃性バインダー物質を含み、第 VIII 族及び第 VIB 族金属成分が、酸化物として計算されて、触媒組成物の少なくとも 50 重量%を構成し、第 VIB 族金属成分がモリブデンとタングステンを 9 : 1～1 : 19 のモル比で含む、触媒組成物である。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0017

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0017】

本発明の触媒中の第VIB族金属と第VIII族卑金属のモル比は、広く、 $10:1 \sim 1:10$ 及び好ましくは $3:1 \sim 1:3$ である。第VIB族金属の1つと他のもののモル比は、重要ではない。モリブデン及びタングステンが第VIB族金属として使用されるときには、モリブデン：タングステンのモル比は好ましくは $9:1 \sim 1:19$ 、より好ましくは $3:1 \sim 1:9$ 、最も好ましくは $3:1 \sim 1:6$ である。